

令和 6 年 12 月 2 日(月)付

学生の歌、人形劇楽しんで

14日にキッズシアター

松江の県立大
短期大学部

保育学科1年生が7演目

島根県立大学短期大学部保育学科の1年生が企画・出演する「キッズシアター」が14日午前10時から正午まで、松江市浜乃木7丁目の同大松江キャンパス2号館2階、表現演習室で開かれる。入場無料。

主対象年齢は3〜5歳児だが、0歳や小学校低学年も楽しめる。親子50組の先着順で、申し込みはQRコードから。問い合わせは同大の渡邊寛智教授、メール onken.sound@gmail.com

保育士や幼稚園教諭などを目指す学生が、地域の子どもたちの前で表現する力を養い、学びにつながるながら地域の親子と交流しようと毎年開いており、今回で7回目。

歌唱「こぎつねのさかしもの」、人形劇「ぴかぴかのおてがみ」、フラックライトパネルシアタ

第7回 島根県立大学短期大学部保育学科1年

キッズシアター

プログラム

- 歌唱「こぎつねのさかしもの」
- 人形劇「ぴかぴかのおてがみ」
- わいわい童謡の森「海苔のグラス」

休演

- フラックライトパネルシアター「おてがみ」
- お笑いライブ「お笑い」
- お笑いライブ「お笑い」
- お笑いライブ「お笑い」
- お笑いライブ「お笑い」
- お笑いライブ「お笑い」
- お笑いライブ「お笑い」

お問い合わせ先

島根県立大学短期大学部
担当：渡邊 寛智
メール onken.sound@gmail.com

ようこそ!
心ゆくまで楽しんでください

キッズシアターの
チラシ



申し込み
はこちら
から



10色のくれよんたちは、いつまでも新品のままじっとしているのが退屈で、飛び出しました。黒いくれよんのくろくん以外は大きくて白い画用紙を見つけて、色とりどりのお花やお空を自由に描きま

す。くろくんも描こうとする

と、「きれいに かいたえをくろくされたら、たまらないよ……」とみんなは、くろくんを仲間外れにします。くろくんは、「なんでぼくって、こんな いろんなだろつ……」とさみしそつ。このままくろくんは、ひとりぼ

つちのままなのかな？

物語からは、誰にでも良いところがあつ、その良さを個性として大事にしてほしいこと、そしてお互いの良さを引き出し合つ、やさしい世界の尊さを感じることができ



くれよんのくろくん (童心社)

個性を引き出し合う尊さ

「くれよんのくろくん」の表紙(なかや みわ作・絵、童心社)



「くれよんのくろくん」の一場面 (なかや みわ作・絵、童心社)

出す絵画技法を「スクラッチ」といいます。作中にもこの技法が使われ、「黒」はとてもいい仕事をします。親子でスクラッチに挑戦し、「くれよんのくろくん」の世界を遊んでください。

物語には「トットトット

コ」「クルクルクルツ」「グルグルグルツ」など、たくさんのオノマトペ(擬態語や擬音語)が出てきます。体育や図工の授業で動作を説明するときなどに先生がオノマトペをよく使いますが、知的障害児や発達障害児の中には、オノマトペだけでは状態を理解するのが難しい子もいます。読み聞かせは音の緩急や高低、速さなどを意識し、手で動作を再現しながらオノマトペを読むと、クレヨンたちの動きをイメージしやすく、楽しい雰囲気になること間違いなしです。

幼稚園や保育所は色を用いたモノ、コト、シーンがたくさんあります。クレヨンや画用紙、折り紙などの用具やそれらを使った製作遊び、「○色の折り紙を使います」「○色の線の上に並びましょう」といった声かけや指示などです。

でも、一般的な色の見え方と異なる見え方「色覚多様性」のある子どもの割合は男性で20人に1人、女性で500人に1人。色覚多様性に理解を深め、関わり方を知っていただけたらうれしいです。

また、「肌色」という色名は、人間の肌の色に固定観念を与える可能性があることとされ、「うすだいだい」などに変更されています。色の名前にも多様性が尊重されていることに、思いを巡らせてみましょう。

(島根県立大人間文化学部 准教授・水内豊和)

|| 土曜掲載 ||



「わたしたちのトビアス」の表紙(セシリア＝スベドベリ編、トビアスの兄弟、ヨルゲン、カロリーナ、ウルリーカ、ヨハナナ文・絵、山内清子訳、偕成社)

わたしたちのトビアス

(偕成社)

ダウン症のある子と生きる

「やっと、電話がなりました。ママからです。わたしたちの弟が生まれたのです。でも、ママの声は、ちっとも、うれしそうではありません。弟はふつうの子どもにはならないだろうというのです。障害児になるのだそうです。」

5人きょうだいの末っ子として生まれてきたトビアスは、ダウン症。両親は当初、トビアスを施設に入れようかと考えましたが、きょうだいたちは大反対。うちで一緒に

いたいと言っています。もしトビアスに手がかるなら、「わたしたち」みんなで手伝うのが当たり前と考えています。

「わたしたちに、ふつうでない弟がいて、よかったと思いません。トビアスのおかげで、わたしたちは、ふつうで

ない人といっしょにくらすことをおぼえるし、ふつうでないとはどういうことかが、わかるようになるからです。」

ダウン症は、偶発的な染色体の異常で出現する身体的発達の遅れ、知的障害、心臓の先天奇形などを伴う障害です。

ダウン症は、偶発的な染色体の異常で出現する身体的発達の遅れ、知的障害、心臓の先天奇形などを伴う障害です。

ダウン症当事者と家族の手記や動画はたくさんあります。このような命の選別につ

1866年に最初に報告したイギリス人のダウン博士の名前を取って1965年から「ダウン症」と呼ばれていました。人間は通常46本の染色体を持つていますが、そのうち21番目の染色体が通常より1本多い3本あることから「トリソミー」とも呼ばれます。ダウン症を含めたいくつかの病気や疾患についての「出生前診断」という言葉を耳にしたこともあるでしょう。特にダウン症は、従来の絨毛検査に比べてリスクが低く、精度が高いとされる母体血胎児染色体検査(NIPT)の登場で出生前診断が普及しています。

ながるデリケートなテーマを考える際は、そんな生の声にもっともっと耳を傾けてほしいと願います。

このお話は出生前診断が確立するよりもずっと前の1975年、スウェーデンで、トビアスのお姉ちゃんが描いたたくさんのお絵かきに母親が書いたものです。日本では78年に出版されました。長い時を経て決して色あせず、ダウン症のある子どもが生まれた家庭の様子を中心に、障害のある人が社会でもっと生きやすくなるためにどうしたらいいかを、子どもにも大人にも考えさせてくれます。

作中の「わたしたち」とはトビアスの家族だけでなく、社会全体を意味すると捉えてもらえたらと思います。

(島根県立人間文化学部 准教授・水内豊和)

土曜掲載



「なんでこんなにいろいろな やっちゃうんだ! じぶんでも わかんないよ! いつも しつばいしてから 気がつくんだ。」「たいへんなこと やっちゃった」って。 だけど しつばいするまでは すっごく いいアイデアに 思えるんだ。どうにかしたいよ じぶんを!」

主人公のデイヴィッドは学校や家庭で悪目立ちしています。やってみたいアイデアが どんどん浮かんで、すぐに試したくなります。授業中に鉛筆回しが何回できるか、片目でどれぐらい立っていられるか、プリンのを握りつぶ

ボクはじっとできない (岩崎書店)

「ボクはじっとできない 自分で解決法をみつけたADHDの男の子のはなし」の表紙(バーバラ・エシヤム)文、マイク&カール・ゴードン/絵 品川裕香/訳、岩崎書店



うまく行動するためのこつ

すとうなるか。そのたびに ゴールスキー先生からとても 怖い「デイヴィッド・モード」の 声で怒られます。

発達障害の一つ・注意欠陥 多動性障害(ADHD)のあ るデイヴィッドのような子ど もは、不注意や多動、衝動的

な行動の結果、叱られること が多くなりがちです。でも、 彼らは決して頑張っていない とか、ふざけているわけでは ないのです。しかし、叱られ てばかりいると「どうせぼく なんて」と自己肯定感が下 がってしまうことも少なくあ

りません。その上、周囲から の適切な理解と支援が受けら れないと、二次障害として非 行や反社会的な行動を示すこ ともあります。

デイヴィッドが素晴らしい のは、どうしたら、この「じ っとできない病」を改善でき

トレスボールを、ADHDの ある子どもたちがよく使っ ています。

学校でうまくやるためのこ つしたこつを、本来は親や教 師が子どもに提案し、それら を用いても、できたことを しつかり褒めることが求めら れています。

るか考えたこと。絵本の中 で は、親や教師が知っておく と いい、すてきなアイデアが、 デイヴィッドから「解決救急 箱」として提示されます。

すべきことをメモして机に 貼っておく、タイマーで時間 を可視化してもらう、動きた くなつた時は配り物係などを 任命してもらい、その行動を いいことにする、などです。

これらは最近、日本の教育現 場にも取り入れられていま す。また本作にあるように、

米国では、ストレスを解消し、 注意・集中を高めるためのス

みんなと同じことができる だけでなく、デイヴィッドの ような「特異」なひらめき を持つ子にしかできない「得意」 を見つけて伸ばすことも大切 です。実は私もかなり衝動的 です。飛べると信じて高所か ら飛び降りて骨折するなど、 ひらめいたアイデアを後先考 えず実行し、親に叱られたこ とは数知れず。それでも、挑 戦したい気持ちを尊重し、惜 しみなく機会を提供してもら った、今の自分があるのだな あと感じるのです。

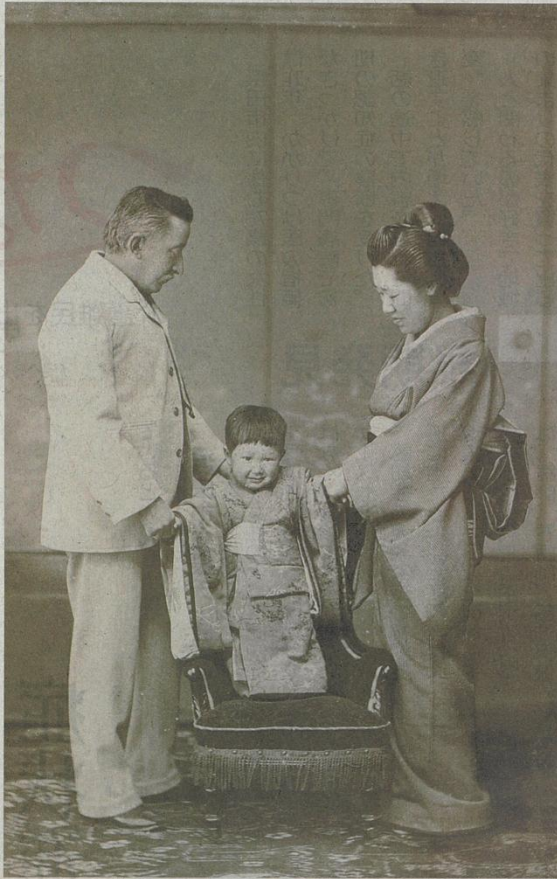
(島根県立大人間文化学部 准教授・水内豊和)

|| 土曜掲載 ||

平凡な小泉セツ

〈三成 清香〉

「守るべき世界」に強い意志



小泉八雲と小泉セツ（右）夫妻と長男の一雄（中央）＝小泉八雲記念館提供

小泉セツについては、特にラ フカディオ・ハーンの再話活動において、優れた語り部として重要な役割を果たしたという点が繰り返し指摘されてきている。今回はそれとは異なるセツの姿から女性の生き方について考えてみたい。

セツは結婚相手こそハーンだ。セツの語り部としての側面が、その家庭生活は極めて平凡なものであったのではないかと想像する。ハーンを支えながら、実父母、養父母、養祖父にも気を配り、子を産み育て、訪問者の対応をする……日々の暮らしはこのように穏やかに営まれたのではないだろうか。

セツがとりわけそうした「平凡さ」を大切にしていたのは、そうした家庭が彼女にとって一つの理想であったからというところではない。ハーンは来日当初こそ社交界を守ることが最優先事項であったことは想像に難くない。

「サムスン」(2005年)などがあるが、これらは社会的弱者としての女性性をしての形で実力を発揮し、世の中に認められていくというストーリーである。このうたはドラマの流行は「女風」(威風堂々からの造語である)という言葉を生み出した。女性性が社会に新しい風を起すこと、すなわち女性の躍進が「女風」に込められたのである。振り返ってみれば、近年の日本のドラマにも女風を感じさせるものが増えている。

だが、そこにある虚構の日本女性像から離れ、日本女性の本当の姿を見いだすのには、時間ばかりかかった。それは彼自身の物事への対処方が、オープンマインドであったというだけでなく、小泉セツ——普通の日本の生活を彼に送らせようと心を砕き続けた女性——が彼の最も身近にいたことが極めて大きい。

そんな「普通の女性」小泉セツを主人公に据えた『はげばけ』とは、どのようなドラマになるのだろうか。これまで注目されてきた人(ラ

セツを「つましやかな女性」もちろん、だからといってセツを「つましやかな女性」と結論づけるのは早計である。先に述べたように、彼女には守るべき世界が確固としてあり、そこに対しては強い意志を持っていたというほうが適切であろう。再話活動についても、筆者のように女風を吹かせたがる者から見れば、書籍の謝辞にでもセツの名前を記し、その功を公にするべきではないかと目くじらをたてたくなる。

しかし、セツにしてみれば、小さな世界の中で夫に物語ることに意味があると確信していたし、ハーンからその謝意が言葉で伝えられていたわけ、その世界の外側の者の評価などは取るに足らないものにすぎなかった。

『怪談』出版から120年という節目の年にセツに関心が寄せられるのは大きな喜びである。しかし、セツが今から120年以上も前に自分の価値をハーンにも、また自らも認められていたということ、女風とは異なる風が小泉家の中にそよめいていたということも大切な事実である。

(島根県立大学人間文化学部地域文化学科准教授)



発達支援や特別支援教育に携わる人にとって、子どもの興味や関心を自然に喚起し、イメージをふくらませ、文字への親しみを高めるすてきな絵本は、子どもの発達を促す大切な教材でもあります。そんな絵本の一つが「もこもこ」。

シンブルだけど動きを想像しやすい絵と一緒に、擬態語、擬音語であるオノマトペがたくさん出てきます。私が読み聞かせをする際には抑揚をつけ、絵本を揺さぶり、とっても多様な表現を用います。子どもたちは絵

読み聞かせ子どもくぎ付け

もこ もこもこ (文研出版)



「もこ もこもこ」の表紙
(谷川俊太郎・作、元永定正・絵、文研出版)

と私の声にときときして、じつと見入ります。

「もこ」から始まり、「もこもこ」、そして「にょき」。ここまできたら、子どもたちの目は絵本にくぎ付けです。「ぎらぎら」では緊張感全開! まばたきひとつせず、固唾をのんで見えています。そして「ばちん!」。

思わずお母さんに抱きつきに行く子もいます。

「えたいの知れないモノが四方に飛び立つ時にせりふはありませんが、私はいつも「シューシュー」と静かに表現していました。そして「ふんわふんわ」。穏やかな世界へのつながりに、子どもたちの握りしめた手は少し緩み始めます。

これまで何人もの子どもが、「一緒に「つん」「ほろり」と言ってくれました。「ふんわふんわ」の動きを体で表現してくれました。また、言葉がない子ども「もう一回読んで!」としぐさでお願いしてくれました。

最近、作者の谷川俊太郎さん(故人)がこの絵本を自ら

読み語る動画を見ました。私の読み方とほとんど同じで、思わず笑いました。「シュー、シュー」も同じように言っていました。これは、絵本を介した子どもと大人の「ことばあそび」に他なりません。

谷川さんなどが執筆した「あたしのあなただのアー」ことばがうまれるまで、実践記録・障害児の言語指導にことばあそびを(太郎次郎社エディタス)で、谷川さんは

次のように記しています。

「ことばあそび」の「あそび」の部分は、障害・健常の区別をなくす力をもつてると思うし、そういうものでなければ、障害児にとっても役に立たないんじゃないでしょうか。障害児たちの反応のなかに、人間にとってもっとも基本的なものがふくまれていて、それを見逃したくないと思っています。ぼくは詩をとおして、彼らと共生できるのを幸せだと思います。」

私は、まだまだお話ができない小さな子ども、言葉が遅れている障害のある子ども、日本語が苦手な外国籍の子ども、今でこそ偉そうに難しい言葉を使う大人だって、誰もがすてきな絵本の前では共通の言語を持ち、理解し合えるのだと思っています。

(島根県立大人間文化学部准教授・水内豊和)

|| 土曜掲載 ||